

製品名: XPA ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab19958

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	40kDa

抗原情報

遺伝子名	XPA
別名	XPA; XPAC; DNA repair protein complementing XP-A cells; Xeroderma pigmentosum group A-complementing protein
遺伝子 ID	7507.0
SwissProt ID	P23025
免疫原	抗血清はヒト XPA 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 211-260

背景

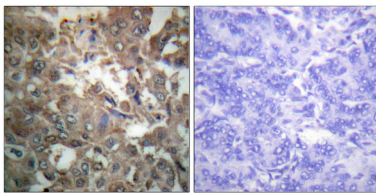
この遺伝子は、DNA 除去修復に関与するジンクフィンガータンパク質をコードしています。コードされているタンパク質は、紫外線

照射誘発光産物および化学発癌物質誘発 DNA 付加物の修復を担う NER (ヌクレオチド除去修復) 複合体の一部です。この遺伝子の変異は、色素性乾皮症相補群 A と関連しています。この遺伝子には、選択的スプライシング転写バリエーションが見つかっています。[RefSeq 提供、2009 年 3 月]、疾患: XPA の欠陥は、色素性乾皮症相補群 A (XP-A) [MIM:278700]の原因です。色素性乾皮症 1 型 (XP1) としても知られています。XP-A は、太陽光過敏症、日光曝露部位の癌発生率の高さ、および場合によっては神経学的異常を特徴とする、まれなヒト常染色体劣性疾患です。グループ A の患者は、最も重篤な皮膚症状と進行性神経障害を示す。機能: DNA 除去修復に関与する。損傷部位に様々な親和性で結合し、修復を開始する。その親和性は、光産物と領域の転写状態に依存する。紫外線誘導性 CHK1 リン酸化、および紫外線照射後の DNA 損傷部位であるシクロブタンピリミジン二量体 (CPD) への CEP164 のリクルートメントに必要である。PTM: DNA 損傷時にリン酸化されるが、おそらく ATM または ATR による。類似性: XPA ファミリーに属する。サブユニット: XAB1 および RPA1 と相互作用する。紫外線照射時に CEP164 と (N 末端を介して) 相互作用する。組織特異性: 様々な細胞株および皮膚線維芽細胞で発現する。、

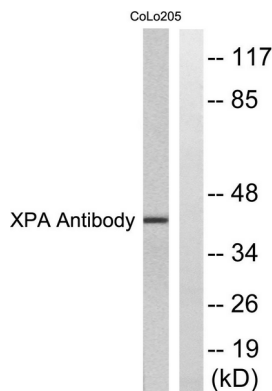
研究分野

ヌクレオチド除去修復

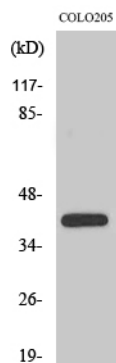
画像データ



XPA 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



COLO205 細胞ライセートの XPA 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



XPA ポリクローナル抗体 (1: 500 希釈) を用いた各種細胞のウェスタンブロット解析。二次抗体は 1: 20000 希釈。

